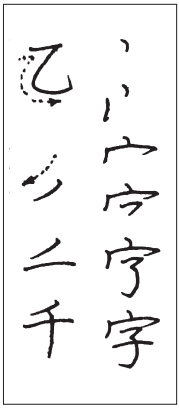
一　筆順と字体・書体などの用語について

筆順　一つの文字を書いていく順序をいい、書き順ともいう。（書き順という方がわかりやすいので、小学校低学年における用語としてはこの方を用いるのがよいと思われる。）

漢字では、画（点を含めて）を組み立てていく順序であるが、そのほかに、また、一つの画（線）をどちらの方から書いていくかも含まれていることを忘れてはならない。

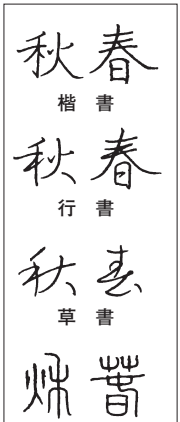


字体　漢字の骨組みである。たとえば横画が三本あれば**三**（サン）の字であり、縦画が三本あれば**川**（かわ）の字である、というのは字体の上のことである。

また、上の横画が短ければ**土**（ド）、下が短ければ**士**（シ）とか、下端をとめれば**干**（カン）、はねれば**于**（ウ）なども同じである。

字形　字の形であり、漢字の骨組みをどのように表現するかの問題に関係している。たとえば、**三**の字では、どの横画が最も長く、どの横画が最も短いのか、または**旅**の字の八画目の下端をとめるのか、はねるのか、などが字形に関することである。

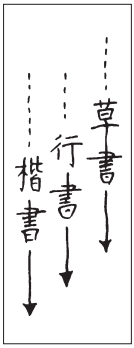
書体　漢字には楷書・行書・草書・篆書・隷書などがあり、これらを書体という。（なお、明朝体・ゴシック体などは、活字の上での書体である。）



五　楷・行・草の筆順に対する正しい認識

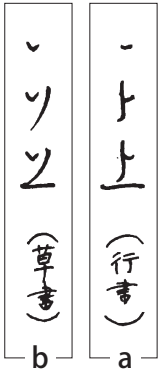
楷書が実用的に速く書かれるようになって行書という書きぶりの字が生まれ、行書がさらに速く書かれるようになって草書が生まれたと思っている人がいるが、これは事実とは異なる。

楷書と草書とは別の過程で生まれたものであり、行書もまた別に生まれたとみてよい。成立の順としては草書が古く漢の時代からあり、次に行書が東晋の王羲之のころに完成され、楷書はその後の唐の時代のものが典型として尊重されている。楷書と行書とは比較的近い関係にあるが、楷書と草書とは直接的には結びつかない。



したがって、筆順のわからない楷書の筆順を考えるとき、行書の筆順を参考にするのはよいが、草書の筆順で楷書の筆順を類推することはおかしいことになる。

たとえば、**上**の字の場合、行書の筆順を見て楷書の筆順を類推して前項の**a**とするのはよいが、草書の筆順を見て、縦画に相当するものが最初であるから、楷書の**上**の字も縦画から書き始めるのをよいとする考えは正しくないといえる。



また、**書**や**出**・**正**の字の草書の形と筆順を考えても、草書の筆順を楷書にあてはめることがおかしいということが容易に理解できる。

書の字の草書

出の字の草書

正の字の草書